



KICK OFF 通信

東京オリンピック いざ発進！



◆無事に終わったリオ大会

これから4年後の2020年7月24日、東京五輪が開幕します。リオでは、治安の悪さが問題視されましたが、大都市東京においても、同様に安全・安心対策は不可欠なテーマとなりましょう。

今大会を振り返るに、日本人選手の健闘ぶりは際立っておりまして。金12、銀8、銅21と合計41個のメダル獲得は、ロンドン五輪の38個を抜いて、史上最多です。

そして今後の4年間における選手の育成強化は、早急に取り組むべく課題となります。スポーツ関連予算3百億円につき、どの程度引き上げることができるでしょうか。

◆都知事選～4年後に向け

ご案内の通り、7月31日の知事選挙では小池百合子氏に軍配が上がりました。氏は選挙戦の際、「東京大改革宣言」を公約のキャッチフレーズに掲げて、積極果敢にチャレンジしたことが功を奏したと

思われます。

今年度の都の予算総額は約13兆円に上り、それはスウェーデンの国家予算に匹敵し、かつ警視庁や消防庁、教育委員会などを合わせた職員数は16万人を数えます。もちろん巨大都市を取り巻く多くの課題が山積しておりますが、次期オリンピックの開催都市として、その注目度は一気に高まることでしょう。

それでは東京五輪は何を目指し、どんな大会にすべきか、それが問題です。

◆解決すべき諸課題とは

申すまでもなく、オリンピックは開催自体を目的にしてはならないと思います。東京の人口は2020年頃をピークに減少に転じる見込みですので、同時並行的に五輪後のビジョンも描いていかねばなりません。

ところで当面は、どんどん膨らんでいく大会予算をいかに抑えるかに重点が置くべきです。競技施

設の整備費はじめ、テロ対策の警備費や、選手並びに大会関係者の宿泊費については、立候補時点の試算が甘すぎました。当初の計画にて7千数百億円と試算していたものは既に破綻状態ではないかとされておりまして、3兆円規模に膨張するのではないかとされておりまして。

あれほど問題視された新国立競技場の建設コストは、3千億円から半分程度で一件落着となり、年内にも本体工事が始まる予定です。そして今後、聖火リレーのコース選定やら、聖火台の設置やら、テスト大会の開催やら目白押し。完成はおそらく開催前年の11月頃になるでしょう。

五輪が余りに商業主義に染まってしまい、娯楽イベントに陥ってしまっているのではないかと指摘も聞かれます。新規施設の建設を抑え、演出も華美にせず、仮に予算が余ることが出来たなら、それは他の老朽化した社会基盤の整備に振り向けるべき…。

そもそも「おもてなし」の心とは、外面よりも内面の充実に焦点を当てていくことなのです。

【プロフィール】

昭和37年 7月28日生まれ
神奈川県立湘南高校・慶應義塾大学卒業後、サラリーマン生活を経て代議士秘書に…

平成 4年 「税は政治なり」との思いで始めた税理士試験に合格

平成 7年 県議会議員初当選～平成19年まで連続3期

平成19年 第21回 参議院議員選挙 当選
予算委員会・ODA委員会などの理事を歴任

平成26年 第47回 衆議院議員選挙 当選
維新の党・税制調査会事務局長

平成28年 民進党結成に参画
国土交通委員会 & 沖縄・北方領土特別委員会の両理事

衆議院議員 / 神奈川県5区
(戸塚・泉・瀬谷)

水み
戸と
まさし

